



JRC

皆さんは「JRC」とは何か知っていますか。
名称は知っていても内容はよくわからない、という人も多いかもしれません。
そこで、JRC活動についてお話を聞いてみました。



弘前工業高校 JRC 顧問 三戸美英

高校の部活動として存在する中弘南黒地区青少年赤十字（JRC）は、弘前高校、弘前中央高校、弘前南高校、弘前実業高校、弘前工業高校、黒石高校、黒石商業高校、柴田高校、東奥義塾高校の9校が加盟し、奉仕活動や募金活動を展開しています。ホットな活動としては、先日開催された「弘前さくらまつり」です。このまつり期間中、各学校のJRC部員が自主的に参加し、ゴミ拾いや空き缶拾いなどの奉仕活動を展開。中学校JRC部員も参加し、総勢100名を優に超える生徒が集結して行われました。

また、県単位や地区単位で行う「トレーニングセンター（2泊3日の宿泊研修会）」もJRC活動の大きな特徴のひとつ。参加した生徒が大きな自信を得ること。そして、積極的に先頭に立とうとのリーダーシップを大きく開ききっかけをつかめることです。今後も多くの生徒に経験させたいな、と思う活動です。

私も実は昨年からJRC顧問との立場になりましたが、ただ単に奉仕活動を展開している団体との認識でした。実際は生徒自身が課題を見つけ、その解決策を考える。一歩深い生き方を学べる場、それがJRCの活動であり、私自身も生徒と共に挑戦の日々です。

中弘南黒地区 JRC 本部長 弘前南高校3年 佐藤さつき

先日、弘前公園で桜まつり奉仕活動が行われ、各高校から多くのJRC部員が参加しました。この活動は、公園内の美化活動が目的で毎年桜まつりの時期に行われています。昨年に引き続き今年も中学生の参加者もいました。

桜の開花と重なったこともあり、観光客がすごく多い中での活動でした。各学校のJRC部員の参加生徒も多く、「和気あいあい」とした雰囲気の中で楽しく活動ができました。そんな中、「地元の生徒さんだ」「頑張ってるね」「ありがとう」など、たくさんの声を掛けてもらい、うれしかったことと、すごくやりがいを感じた今年の活動でした。



5月には救急法講習会があり、そこでは心肺蘇生や三角巾を使った包帯法などを学びます。6月には地区トレと呼ばれる2泊3日の日程で行う活動があります。この活動では各高校のJRC部員が互いに交流を深め合います。自分を客観的に見つめることや積極性を養う事が出来るのが地区トレの素晴らしいところです。

JRC部には学年による壁が薄く、小さな問題も皆が真剣に向き合ってくれます。これは赤十字活動の理念である「気づき 考え 実行する」に基づくものです。今後も様々な活動が予定されています。どの活動も有意義なものになるように頑張っていきたいと思います。



活動紹介 - 弘前コスモス会(行政書士有志の会) -

弘前コスモス会は毎月第2火曜日午後無料相談会を行っています。

今年度からは奇数月を市民参画センターで、偶数月をヒロロで開催します。

相談を担当するのは有志の行政書士です。行政書士と聞いても、なかなかなじみがないと思いますが、地域社会に貢献しながら市民の皆さんに業務の一端を知ってもらいたいということで相談会を始めました。

相談内容は相続、遺言、任意後見を中心としています。

相続は誰にでも起こる身近な問題ですが、親族間のことであり、財産の処分ということで友人知人にも相談しづらいものです。いざその時になると何から手をつけたらいいのか戸惑う方がほとんどでしょう。そのため相続を経験された方は遺言についての関心が高いようです。せっかくの遺言ですから法的効果のあるものを遺したいものです。また、遺言と合わせて考えていただきたいのが、後見制度です。高齢になり判断力が衰えてきた時に自分の代わりに権利義務を行使する人をあらかじめ決めておくことができます。

無料相談だけでは限界がありますが、相談することで問題点を整理でき、解決の糸口が見つかるかもしれません。お気軽に相談に来ていただければと思っております。

弘前コスモス会 代表 奈良尚子



～古着、古靴を国際社会で再利用しませんか？～

古着・古靴は、発展途上国で再利用され、その国の子ども達の健康に役立っています。

とりわけ、古靴は、公益財団ジョイセフを通じ、ザンビア共和国に届けられています。

ザンビア共和国は、自給自足で生活をする農民が多いのですが、年間収入がわずか60ドル(約6000円)しかありません。子ども達の靴を買う事さえできず、多くの子ども達が裸足で生活しています。ザンビアのマサイティ郡は、寄生虫の感染率が高い地域です。駆除は行っていますが、靴をはいていないため、一旦治癒してもまた感染するという悪循環を生み出しています。たった一足の靴で、ザンビアの子ども達や親に健康の大切さを伝える事ができるのです。

市内のスーパーや百貨店などでも古靴の再利用の活動を支援している所があります。また、古着などの支援に関しては、JICAなどのHPをご覧ください。

ボランティアスタッフ 阿保



- 豆知識

「端午」とはその月の最初の午(うま)の日のこと。「端」は端緒(物事の始まり)の「端」。だから、端午の節句が五月五日とは限らなかったのだけれども、午と五の発音が同じなので、いつしか五月五日が端午の節句として定着してしまっただけです。

旧暦の五月は暑い。そこで薬草である菖蒲を浮かべた酒を飲んで馬の元気にあやかろう、と言うのが端午の節句の元々の趣旨。

それが日本に伝わってきて、菖蒲と尚武(武を尊ぶ)を引っ掛けて、男の子の節句に変化したわけです。



編集後記

4月から市民参画センターに配属になりました菅野と申します。まだ短期間ではありますが、ボランティア活動や学習会などの各種活動にいきいきと参画されている皆さまの様子を見たり、聞いたりする機会が増え、日々こっそり、「元気」をもらっております。

もらってばかりでは申し訳ないので、いつか何かのお役にたてるように学びを重ねながら、たくさんのお会いがあることを楽しみにしております。

どうぞよろしくお願いいたします。 菅野昌子



<製作> 市民ボランティアスタッフ <製作協力> 弘前市ボランティア支援センター 036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター内
TEL: 38-5595 FAX: 36-1822
HP: <http://www.hi-it/vsc>

情報紙についての意見・感想をお待ちしております。